【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立湊中学校
1　前年度 評価結果の概要	・全教師がラーニングマウンテンを活用し、授業公開を行ったことで意欲的に授業に取り組み生徒が増えた一方で家庭学習の時間が減少している生徒がみられた。 ・毎日、「じぶんログ」の中に生活面の質問があり、何気ない回答にも教師が気にかけて声掛けをした。 ・タブレット端末の更なる活用について、タイピング技能を身につけた生徒は75%で苦手意識を持っている生徒が全体の25%いた。 ・地域活動・ボランティア活動においては、70.2%と主体的に募金を行うなど積極的に活動した。
2　学校教育目標	**感謝・自立・挑戦**
3　本年度の重点目標	**1．生徒が「湊中」でよかった。（母校への誇り、充実した学校生活、進路保障）** **2．保護者・地域が「湊中」に通わせてよかった。（生き生きとした子どもの姿、進路先確保）** **3．教職員が「湊中」に勤めてよかった。（風通しの良い職場環境、職能向上）**

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○主体的に学習に取り組む生徒の育成 ○家庭学習の充実	○ラーニングマウンテンを活用して単元の見通しと振り返りを全教員(100%)実施する。 ○毎日の家庭学習を1時間以上する生徒の割合を70%以上	・校内研究の取組を実践し、全教師が授業公開をする。 ・発達段階や能力に応じた学習内容に取り組ませたり、家庭学習の習慣化を図るための手立てを工夫する。	A	・ラーニングマウンテンを活用し、単元の見通しと振り返りをさせている教師は100%であった。振り返りの方法や時間の確保等に課題があるので、来年度の研究目標として取り組む。 ・毎日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合74%であった。今後も教科間での連携を通して、学習方法を改善していく。	A	・グループ学習が男女関係なくしっかりできている ・タブレットを効果的に授業で活用できている
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒は81％以上であった。	・各学年担当で、年間計画に沿って道徳の授業を実施する。 ・道徳に関するアンケートの実施 ・生徒全員が人権作文に取り組む。	A	・道徳の授業を重ねることで幅広い視野に立ってものごとを考えるようになった。良いことと悪いことの判断が身についた。また、75%の先生が「考え、議論する道徳」を実践していた。さらに、92%の生徒が授業で自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いて幅広く考えて、安心して学校生活を過ごしていると回答している。 ・全校で人権作文に取り組み、人権について深く考える時間を設定することができた。 ・12月の人権週間の取り組みとして、校内放送で人権作文を紹介し感想を書かせることで、様々な人権課題について理解し考えることができた。	A	・道徳の授業に全職員で取り組むことができている。 ・12月の人権週間で新たな取り組みを始めるなど人権について学校全体で考えることができている。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義・いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応をしていく。	・月末に全校生徒に「生活アンケート」を行い、生徒の学校生活を把握する。	A	・「生活アンケート」を通して、頑張ったことや頑張っている人を紹介することで、生徒たちの承認欲求が満たされていったと思われる。また、気になる生徒への迅速な対応、指導・支援のおかげで、いじめ防止に努めた。また、互いに信頼関係が構築している様子で生徒の相談・支援もスムーズに行うことができた。教師の88%が生徒の良いところを見つけ、声掛けをしている。さらに生徒の97%が「あなたの良いところを褒めてくれる」と回答している。	A	・生徒の97%が「あなたの良い所をほめてくれる」と回答するなど、先生方が子どもたちの良い所を見てくれている。 ・学校独自の生徒アンケートで、子どもたち同士が良い所を認め合っている。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・諸行事等で活躍の場を増やし、「じぶんログ」のコメントや学級通信で紹介したりし、自己肯定感を高めさせる。 ・高校説明会や職業講話、職業体験、日常の進路指導等を通して、生徒の進路意識を高める。	A	・「先生は良いところを認めほめてくれる」の達成率は97%であった。活躍の場が十分に保証され、承認を受け、自己肯定感を高めた生徒が多かったことを示しているものと思われる。 ・「夢や目標を持っている」の達成率は83%であった。キャリア教育や学校活動全体を通して、進路意識の高揚が全体的に高まったものだと考えられる。 ・3年生の進路決定状況も現時点では順調である。	A	・生徒たちの活躍の場が保証され、自己肯定感の向上につながっている。 ・外部講師を積極的に活用し、全学年キャリア教育に力を入れている。3年生の進路決定も順調である。
	○（学校独自重点取組・任意）	○	・				・
●健康・体つくり	❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ❺「健康を考えて行動できる能力の育成」	❸「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ❺「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒80%以上	・9割以上が「朝食を食べている」と回答している。 ・家庭科の授業や給食時間を活用した食に関する指導を行う。 ・6月に「交通安全教室」を実施したり、自転車点検、特にブレーキ点検や通学路に関するアンケートで不慣な場所があると関係機関に連絡をして対応している。	B	・11月より自転車の罰則化が強化されたのを機に交通ルールが日常に変化をもたらしたことを、全校集会を通して説明した。登校指導を通して、小中学生の登校の様子を見守り、安全に登校していたことを確認できた。 ・食育に関して「ふるさと先生」を活用しすることで身近な食品の製造工程が理解でき、食に関する関心が高まったと考える。また、家庭科の授業の中でも栄養や行事食に関して取り扱った。しかし、行事食に関しては実施している家庭は少なかった。 ・運動や健康、体力づくりに努めている生徒の達成率は83%であった。	B	・先生方も多忙な中で交通指導や食育についてしっかりと関わってくださり、生徒の安全・安心が保障されている。行事食については来年実践してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守。 ○月の時間外在校等時間が45時間未満の職員の割合を75%以上にする。 ○部活動の複数顧問により負担が軽減されていると回答した教員80%以上 ○長期休業中を中心に、年間8日以上の年休を取得した職員が80%以上	時間外在校等時間の上限を遵守するために、ICTを活用しデータの共有、前年度踏襲を見直し、誰が担当になっても適切・かつ迅速に対応できるよう校務分掌の見直しを行う。・定時退勤日・部活動休養日を徹底する。 ・部活動の複数顧問により、指導の負担を軽減する。 ・管理職が年休取得を推進するとともに、声かけを行う。	B	・月の時間外在校等時間で45時間超の職員が20%にとどまった。 ・研究主任・ICT推進リーダーと連携し、校内研修で授業におけるICTの効果的な活用方法を提示し、業務改善の視点で研修を行った。 ・年間6日以上の年休取得者が100%だった。 ・部活動の複数顧問により負担が軽減できた職員とそうでない職員がいた。	B	・少ない職員で多くの校務分掌を抱えている中で、働き方改革を各自で実践されている。 ・部活動の負担が来年度は偏らないようにしてほしい。
	○会議・研修の精選	○ICTを活用し職員会議・校内研修の内容の充実と時間をこれまでかかっていた時間から5分短縮する。	・年度当初に、職員の共通理解と共通実践を確認し、伝達内容の重複を避ける。	A	・会議・研修においてペーパレスを進めていくことができた。会議準備・会議時間の短縮につながった。	A	・ICTを職員も効果的に活用して、働く方改革につながっている。
●特別支援教育の充実	○個々の生徒の障碍の状態等に応じた授業内容や指導方法の工夫を計画的・組織的に行う。全職員への周知徹底。	○生徒理解に係る、生徒の実態と支援の手立てについてのケース会議を学期に1回以上。（生徒指導との連携）	・関係機関との連絡調整。 ・スクールカウンセラーの活用。 ・職員研修の実施。	B	・通常学級における特別な支援が必要な生徒に関して、エリアリーダーの先生を招いて実施することができた。 ・小中の特別支援学級の連携と情報交換を密に行うことができた。 ・スクールカウンセラーとの情報交換と連携ができたが、保護者向け等の研修会も開催する機会があればよかった。 ・特別な支援を必要とする生徒の進路についての話を保護者と話す機会がもっと必要だと感じた。	B	・特別支援教育担当だけでなく、外部講師を招いて全職員が特別支援教育についての知識・理解を深めていくのはいいことである。 ・保護者の対話を積極的に図っていくことができるようになってほしい。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○主体的に活動できる生徒の育成	○各専門部の充実と地域や社会貢献活動への参加	○地域や社会貢献を通して、自己有用感や達成感を得られた生徒80%以上 ◎各部委員会や体験活動の充実させ、肯定的な回答をした保護者80%以上	・生徒会活動やボランティア活動、地域活動への積極的に参加するような呼びかけや活動の工夫をする。 ・小中連携をとり、行事活動を通して自己肯定感を高める。	A	・地域行事やボランティア活動に60%の生徒が積極的に参加をしていると答えている。今後は、生徒活躍の場や体験活動を通して心豊かな人間形成を図っていく。	A	・地域活動や小学校の行事に生徒たちが積極的に参加できている。地元のお祭りのボランティアにも積極的に参加していた。
○個別最適な学び	○ICT利活用	○校内タイピング検定合格者50%以上	・毎週月曜日の朝の時間タイピング練習を行い、年に数回の検定試験日を設定する。 ・教師は教科の単元の中でICTを用いた授業計画を行う。	A	・校内研修でICT研修を行い、Teamsだけでなく、PadletやCanvaなどを紹介し、効率的なICTの活用について共有することができた。 ・タイピング検定の合格者50%を達成することができなかったため、計画的な練習やアナウンスを行っていく。	A	・どの授業も積極的にICTを活用し、子どもたちが楽しく学んでいる。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・今年度の学校目標である「感謝・自立・挑戦」を生徒達に意識付け、生活アンケート等で定期的に振り返りをさせながら豊かな心の育成に努めた。 ・学力向上指定校2年目となり、職員研修や授業実践を行い、タブレット活動や学び合い、ラーニングマウンテンの研究に努めた。今後も、ラーニングマウンテンを活用し、学習指導のみならず学校行事や学級活動で生徒達に効果的な学習指導ができるように研究を深めたい。 ・キャリア教育のために、職業体験や卒業生による「先輩に学ぶ会」を実施した。生徒達が夢や目標をもって取り組めるように、体験学習や学力向上に取り組み、更にキャリア教育を充実させる。また、地域行事や小中連携を積極的に行うことで郷土を愛し、貢献できる生徒を育成したい。